

Q 使用済み紙おむつリサイクル事業については

A 多角的に研究していく

権名 祐司

問 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、これまで中学生海外派遣事業については中止を余儀なくされている。こうした状況の中で、小学校5、6年生を対象にしたイングリッシュサマーキャンプなどを開催し、英語に親しむ取り組みも必要だと思うが。

教育長 令和4年度は海外派遣代替事業として、中学生を対象にオールイングリッシュによるみどり市イングリッシュサマーチャレンジ(仮称)を計画している。まだ計画段階だが、夏休み期間を活用して、市内ALT11名を講師に日常の英会話、体験的な活動、英語による市の紹介プレゼンテーションの作成などを予定している。

問 英検を受検する児童生徒に対し、受験料の補助を行う自治体が多くなっているが、英検受験料補助についての考え方は。

教育長 今後、国際化が一層進む時代を生きる子どもたちには中学校卒業段階までに、英検3級以上の英語力を身につけさせることは、とても重要なことだと考えている。英検受験料を助成することは、生徒の英語への学習意欲、英語力の向上にもつながると考えているが、財源の確保が重要な課題となる。

問 使用済み紙おむつの排出量におけるみどり市の現状は。

市民部長 環境省で公開されている使用済み紙おむつ排出量の推計では、令和2年度は、年間約876トン。市民1人1日当たり、47・7グラムとなる。

問 使用済み紙おむつ再生利用などの効果については。

市民部長 焼却処分から再生利用に切り替えることにより、焼却処理の最適化、埋め立て処分量の削減にな

り、ごみ処理費用の抑制にも有効である。

問 過疎地域に指定された旧大間々町の活性化策の一つとして、過疎対策事業債を活用し、使用済み紙おむつリサイクル事業に特化したリサイクルセンターを新たに建設し、雇用を創出していくことも必要だと思いが。

市長 使用済み紙おむつをパルプなどに再生利用する場合、人口20万人以上の規模が必要となり、広域圏での運用になる。現在、本市のごみ処理を委託している桐生市清掃センターも施設の老朽化などにより、将来的には新たな施設の建設が必要となる。今後のごみ処理施設の在り方などを総合的に調整していく上で、使用済み紙おむつのリサイクル事業も含め、多角的に研究していく必要があると考える。